



明石市に必要な3つの柱



**産業振興
(観光振興)**

**災害対策
(安全対策)**

人材育成

大雨対策の削減は正しいのか

明石では近年発生している大雨・ゲリラ豪雨への対策が必要です。古い下水管をやり替えると同時に太くして、市民の命や財産を守る計画を進めてきました。予算としては600億円の長期計画ですが、今はこれを無駄だと切り捨てて4分の1にしています。100年に一度の大雨で10軒が浸水するだけ、という情報は事実でなく、実際は7年に一度の大雨にも対応できていません。議会は感情的対立を終わらせ、中身のある議論をしなければなりません。

大雨対策の削減は正しいのか

「やりがい搾取」からの脱却

子供に関わる保育所、学校、学童保育、学校司書等の仕事について「やりがい搾取」と呼ばれる「やりがいや責任感を人質に、雇用条件が改善されない状態」が多く見られます。良い人を育て、定着してもらうために、経験やスキルが評価されて給与に反映される評価基準、契約切りの心配をせずに働き続けられる仕組みが必要です。

目先の利益だけを見る政治家は、明石で育てた人材が、他市で働くことになったら損だと考えます。すると人材育成のための投資に消極的になり、人材不足が続きます。

中西レオは周辺自治体と手を組み、スケールメリットを生み出して人材育成に取り組みます。



多様な観光資源

将来も明石が豊かで住みやすい街であるために、企業や働く人を育て守る必要があります。兵庫県には若い世代(30歳未満)の奨学金返済を自治体と企業が本人と一緒に返していく制度があります。地元企業は若い人材を採用でき、若者は奨学金の返済が大幅に減るといい良い制度。でも県内202社が登録している中で、明石市は5社(昨年12月時点)のみ。議会からも推し進めるべきです。

明石はバイク・自転車の街でもあります。先日、嬉しいニュースがありました。淡路島く徳島の大鳴門橋を自転車を通れるようにして、瀬戸内海を自転車でぐるり一周できるようにしようという話が進むそうです。明石も集客のチャンス!海岸線走るコースに合わせて、お店や撮影スポットを用意するなど、楽しい企画を市民や自転車ユーザー、関連企業などを交えて作りましょう。そこから、市政に関りを持つ人を増やすきっかけにもなります。観光は外向けだけでなく、市内にも良い影響を与えるテーマなのです。

多様な観光資源

地元企業を支援



子育て支援をバージョンアップ!!



年末に保育所での虐待事件が報道されました。心身に余裕のない保育の現場で、保育士の倫理観がおかしくなってしまったのかもしれませんが。

悲しい事件を明石の保育現場で決して起こしてはいけません。とはいえ、行政が指導や査察、研修を重ねたところで、現場に余裕がなければ子供も保育者も守れない。

保育士の配置基準の改善は国の役割とはいえ、要望だけではいつ改善されるかわかりません。市として独自の加配や、行事など保育所の業務を減らすことに取り組む必要があります。もちろん、保護者との丁寧な意見交換が前提です。

派手な無料化政策は政治家のポイント稼ぎになりますが、本当に大事なものは目に見えないことが多いものです。今こそ明石市は子育て支援のバージョンアップに取り組みましょう。